

次世代まで幸せになる林業を目指して

萩市農林水産部 林政課

はじめに

萩市は、市の将来像や街づくりの方向性を市民と共有し、市民と行政が一体となって進めるまちづくりの指針「萩市基本ビジョン」を平成30年7月に策定し、産業活力があふれるまちづくりとして力強い農林水産業の推進や、地域産業の担い手・後継者育成を柱に事業を推進しています。

また、令和元年12月に市長自ら、あらためて身近にある豊かな森林資源に目を向け、地域特性に相応しい木材利用体制の構築に取り組み、次世代まで幸せになる林業と木材の活用を通じた持続可能な地域を目指し、「萩ウッド・チェンジ宣言」(※1)を行いました。



萩ウッドチェンジ宣言



現状及び課題

市域の8割を森林が占め、森林の内、主に木材生産の対象となるスギ・ヒノキ人工林は4割です。その材積成長量は年間約162千 m^3 と見込まれていますが、市内の主たる林業事業体は阿武萩森林組合1者であり、その平成30年度の搬出量は主伐・間伐で約5千 m^3 と、材積成長量の1/3未満に留まっています。

市内の木材流通について見ると、阿武萩森林組合等により伐採・搬出された木材は、県森林組合連合会の共販所(市場)を通じて流通しています。市産木材(平成29年:15,719 m^3)のうち、販売先が市内であるのは3%程度(平成29年:535 m^3)で、多くの市産木材が市外へと流出しています。これは、市産木材需要が公共施設及び民間向けとも減少していることに伴い、市内の製材所数も減少していることから、事業規模の拡大ができず、担い手の確保・育成も困難になるなど持続的な森林資源の利活用を実践できない状況につながっています。

一方で、戦後造成された人工林の多くが利用期を迎え、適正に伐採・利用し、再造林をしていくことが必要ですが、スギ・ヒノキをはじめとした木材価格の低迷等により、森林所有者の林業に対する関心が低下している中で、再造林率は4.7%(県内平成30年21.5%)とかなり低くなっています。

もり しょく にん 森・職・人づくり事業

こうした状況を背景に、昨年4月から、国により森林経営管理法に基づく制度が開始

され、また、財源として森林環境譲与税が譲与され、市町村が積極的に森林の適正な経営管理に取り組む仕組みが整えられつつあります。

本市としては、この財源を有効に活用し、林業に適した「森づくり」、森林組合など林業者が働きやすい「職づくり」、未来の担い手を確保・育成する「人づくり」を総合的に行う森・職・人づくり事業に取り組み、阿武萩地域林業成長産業化の実現を目指します。令和元年度から、阿武萩森林組合や山口県萩農林水産事務所森林部と連携し、市有林を中心に資源の充実した森林を集約して主伐生産団地を設定し、伐採・利用・再造林を推進しています。当面は、資源の配置状況等を勘察し、川上・福栄地域を対象に、森林所有者が今後の森林管理方法をどのように行っていきたいのか意向調査を行います。意向調査の結果を踏まえ、形成された団地に対して、令和2年度から、必要に応じて基幹作業道の整備などを行うこととしています。続いて、他地域でも実施していきたいと考えています。



主伐生産団地の現場検討



主伐生産団地の設定作業

林業6次産業化推進事業

「木材・木製品の事業者数の減少」の解決に向け、平成30年度から地域の木材の価格を高められるよう、林業の6次産業化に向けたしくみづくりの検討を進めています（※2）。市内外の企業のヒヤリングを通して、現時点で1次から3次産業まで一貫して取り組んでいる企業は見受けられませんが、萩市産材を使った上質な空間づくり、空間の活用、更には地域づくりにも興味・関心を示す事業者も存在しており、そうした企業との連携が地域商社の立ち上げに向けて必須と考えています。

また、ヒノキの「葉枯らし乾燥」による高付加価値化の取組にもチャレンジしています。



ヒノキ葉枯らし現場



ヒノキ葉枯らし材の試験搬出

林業スタートアップ応援事業

さらに、「担い手の確保・育成の困難な状況」の解決に向けて、令和元年度から林業スタートアップ応援事業として、農業や水産とともに一次産業への新規就業者への支援対策を打ち出しています。

具体的には、①準備資金として5万円（初回のみ）、②家賃支援として家賃の半額助成（上限：2万円）、③子育て支援（5千円/月）、④就業支援（3万円/月）の4つの支援があり、②～④は最長3年間となっています。



新規就業ガイダンス
(林業スタートアップ応援事業)

おわりに

本市では、地域の様々な課題・要望を踏まえ、阿武萩森林組合や山口県萩農林水産事務所森林部等と連携し、森づくり、職づくり、人づくりを総合的に行い、阿武萩地域林業成長産業化の実現に向け、「次世代まで幸せになる林業」を目指してまいりますので、皆様のご理解とご協力をよろしく申し上げます。



みどりの女神と植樹する子

- (※1) 林野庁主催の「民間建築物等における木材利用促進に向けた懇談会」(通称ウッド・チェンジ・ネットワーク)に呼応し、萩市らしい木材利用の具体化を目指して、令和元年12月14日に宣言しました。
- (※2) 岡山県西粟倉村や福岡県八女市などで地域事業会社を設立・運営実績のある株式会社トビムシへ調査等を委託しています。